

Support for **Woman** Doctors ～私からあなたへ～

甘利 香織 先生【佐賀県 25 期】
お子さんは 6歳、4歳の 2人



佐賀県 25 期の甘利です。時折目にすることがあったこの自治医大卒業生リレーエッセイ。まさか自分にバトンがまわってくるとは……。おっと思いましたが、これもご縁と思い、つついバトンをいただいてしまいました。文章がうまいわけでも、特別な経歴があるわけでもありませんが、おつきあいください。

さて、さっそく私の自治医大入学後から人生を振り返ってみたいと思います。大学時代の長期休暇には、リュック一つ背負って、ユースホステルや教会に泊まりながら、いろんな国々を訪ねてまわりました。場所がかわれば、ルールが変わり、へえと思ったり、げげげっと思ったり、驚くことはたくさんありましたが、郷に入りては、郷に従えでやっていくと、手を差し伸べてくれる人もたくさんいましたし、それに笑顔でありがとうの気持ちを伝えると、ちょっとした交流がはじめて楽しくなってきたりして。また、危険察知能力やどこでも寝られる能力はこの旅で養われたように思います。救急医としての礎となっているのかもしれない。

卒後2年間の多科ローテーション研修後、3年目からは離島の診療所長として3年間勤務しました。医師、看護師、事務員それぞれ1人の3人体制で、胃透視、上部消化管内視鏡などを含めた住民健診や脱臼整復、縫合などの急患対応を行いました。大きな病院と違った不便さを感じることもありましたが、責任をもってプライマリケアを学ぶには最適な環境で、温かい住民と診療所のスタッフに支えられ、楽しく充実した3年間でした。

離島勤務後は、再び卒後研修を行った病院で救急科のスタッフとなり、離島でのプライマリ診療から突如、3次救急の対応を任されるようになりました。救急診療は、緊張が走る場面も多い現場ですが、全身を見るという観点ではプライマリ診療の延長で、医師としての基礎能力

を高めるにはいい土壌と思います。離島での診療とはまた違った重責を感じながらの勤務でしたが、充実感もありました。

後期研修では、循環器内科の研修を行い、義務年限を終了しました。同時期に結婚し、第一子を授かりました。ワークライフバランスについて、ロールモデルとなるような先輩が近くにおらず、悩みましたが第一線に残って働く決断をしました。診療科は、シフト制の救急科にうつり、日勤をしながら、出産を迎えました。出産後も、生後8カ月から短時間勤務を利用して、職場復帰し、徐々に勤務時間を延長していきました。職場の上司、同僚、家族の理解、多くの助けがあり、仕事を続けることができいております。悩むことも多くありますが、それ以上に得るものも多く、夫を通して異業種との交流をもつことができ、子育てを通して、世間を知ることができることは社会人として、医師として大きな糧になっていると実感しております。

体力には自信がりましたが、妊娠をきっかけに、今までと同じように働くことは難しくなり、また、産後、自分の体が楽になっても、家族のことで以前のように、仕事に時間をさけません。職場でも、家庭でも、うまくまわすコツがあるとすれば、たくさん手助けしてくれる周囲の方々がありがとうの気持ちを率直に伝えることでしょうか。

私自身、学生時代の放浪旅の影響か、場所や立場が変わっても割と楽しめます。余裕がないとがんじがらめになりがちですが、この先も今のスタンスで人生を楽しんでいけるといいなと思っています。

まだまだ自分のことで手一杯ですが、子供たちがもう少し手を離れたら、できることから仕事を増やししながら、次世代の方々のサポートをしっかりできる先輩になりたいと思います。

後輩医師・学生へ一言メッセージ
『ありがとうを忘れずに、
おかれた場所で楽しもう！』